

かたの



R3.4.30
形埜小学校
校長だより

中日新聞(28日)より

一人一言、絵を描いたときの思いを發表しました。その言葉がこもれび会の方々に伝わったのでしょうか。一人話すごとに「ありがとう」と声をかけてくださいました。短い時間でしたが、いろいろな人のお話を聞き、ふるさとへの思い・形埜の自然の魅力・一緒に描いた仲間のこと、いろいろ感じているいろいろ考えたと思います。素敵な時間でした。

設置された看板を囲む形埜小児童と間伐こもれび会の会員ら＝岡崎市桜形町で



児童が思い描いた森 看板設置

岡崎・形埜小近くに
「間伐こもれび会」

安城市の市民活動団体「間伐こもれび会」は二十七日、岡崎市桜形町の形埜小学校の児童たちが思い描く森を児童自身の手で表現した看板を同校近くに設置した。

看板はヒノキ製。高さ約二・三メートル、横約一・六メートル。昨年十一月、会が「看板に絵を描いてほしい」と形埜小に依頼。当時五年生だった十二人の児童が絵の具で虹、鳥、イノシシなどを色鮮やかに描き、三月に完成した。

会は二〇一五年三月に発足し、現在は県内外の七十代を中心の四十六人で構成。桜形地区で週に一度、木々を間伐し、その木材を使った積み木を岡崎市の保育園に無償で贈っている。

看板を前に六年の児童は「森林の大切さを多くの人に知ってもらいたい」「森にもっとたくさんの人や動物が来てほしい」と、絵に込めた思いを会員らに伝えた。会の伊藤浩会長(モセ)は「子どもたちに自然の大切さが伝わったと思う」と喜んだ。

(鈴木渉太)

保護者の皆様へ

学校公開デーにてお話しした「行ってきます」の挨拶について、月曜日の朝会で子どもたちに聞いてみました。「あなたの行ってきますの挨拶で、お家の方は笑顔になりましたか？」～今度はほとんどの子の手が勢いよく挙がりました。「笑顔をGETするために作戦たてた人？」と尋ねたら、「まずは、自分が笑顔いっぱい元気に声出しました」「腰をたてて(ちゃんとした姿勢で)声出しました」と話してくれました。子どもたちも、笑顔GETのために自分なりの工夫をしたようです。素敵です！これからも、とびきりの笑顔をよろしく願います。



ゴールデンウィーク明けには、笑顔いっぱい元気に登校できますように！

ゴールデンウィーク明けの次の週からは、運動会の練習もスタートします。お休み明け、そして、運動会練習には、万全の体調&やる気満々でのぞめることを願っています。そのためにも、このお休みが上手に過ごせるといいなと思います。みんな、わくわくしているようで、聞いてもないのに？お休みの予定を教えてください。「家族で、ケーキを作るんだよ。モンブランだよ。」(「難しそうだな…」)「買ってもらったウクレキッドを完成させるんだ」(「しぶいな…」)「おばあちゃんとお話するんだよ！」(「おばあちゃん喜ぶね!」)「お休みに学校の一輪車乗りにきてもいいの？」(「どうぞ、どうぞ!」)「本をいっぱい読む」(「先生も!」)話は尽きません。ゆつくりできるたっぷりの時間、ちょっといつもと違うことに挑戦し、わくわく感とともに「やったぞ!できたぞ」と充実感を感じることができれば、休み明け・笑顔いっぱいの登校につながるはずですよ。